

みんながとってつくるセーフコミュニティ！

秩父市では、世界基準の安心・安全なまちづくりを進める都市として、セーフコミュニティの国際認証を取得しました。昨年の認証後初めての合同対策委員会を開催しました。

6月29日、30日に秩父市セーフコミュニティ合同対策委員会を開催しました。対策委員会は交通安全、子どもの安全、高齢者の安全、災害時の安全、犯罪の防止、自然の中の安全、自殺予防の7つの重点課題への対策を検討しています。

合同対策委員会には、日本セーフコミュニティ推進機構の白石陽子代表理事、今井久人専務理事をお招きし、3つのグループに分かれ、現在の課題や検討状況の報告を行いました。



合同対策委員会の様子



白石代表理事(右)と今井専務理事(左)

各対策委員からは、「セーフコミュニティの認知度を上げるにはどうしたらよいか」、「5年後の再認証に向けてどのような取り組みでいったらよいか」などについて質問があり、白石代表理事からは、重点課題の取り組みや今後の取り組みの方向性を含めて、指導・助言をいただきました。最後に全体を通して、「認証後も活動内容を広く発信し、事故やケガを減らす取り組みにしてほしい」とアドバースがありました。

今後、今回の検討内容やアドバイスを踏まえて、各対策委員会での活動を充実させていきたいと考えています。

問 危機管理課 ☎ 22-22206

国指定の伝統工芸品へ8  
秩父銘仙こぼれ話

前回もご紹介しましたが、銘仙は最盛期に1,200万反織られていました。銘仙を愛する、秩父市の木村和恵さんは数千枚の銘仙を所有していますが、「コレクションの中で、同じ模様の銘仙を見たことが無い」と話されています。それだけ、多彩な柄の銘仙が次々と生産されていたわけです。

当然、関東の産地である伊勢崎や足利でもそれぞれに新しい銘仙の柄をデザインして競い合いました。競争することで素晴らしいデザインの着物が世の中に供給されたのです。そのデザインは100年後の現在、ファッションブランドやパリのコレのような最先端のデザイナーに注目されるようになりました。時には、明らかに銘仙の柄をリメイクしたようなデザインも、新規の優れたデザインとして評価されることがあります。

大正ロマン・昭和モダンなどといわれますが、当時、リアルタイムで銘仙の新作をセレクトしていた若い女性たちは、今に引けをとらないファッションセンスで自分を磨いていたのです。その「モガ(※)」たちも今は80歳前後となつて、その記憶も遠いものとなつていくかもしれませんが、いつの世もファッションをリードするのは

女性であるということなのです。写真は昭和10年の銀座ですが、モダンな柄の銘仙がまぶしく見える風景の一コマです。



昭和10年銀座残像 師岡宏次 撮影(日本カメラ社に使用許可を得て掲載)



御茶ノ水女子高等師範学校(御茶ノ水好み)

そして、この写真は秩父の坂善織物で織られた御茶ノ水女子高等師範学校の制服です。羽織、着物は秩父が得意とするモダンな花柄で、当時の女子は銘仙でファッションに目覚めたといわれています。

※モガ：モダンガールの略称。昔も今も単語を短く略して使っているようです。

埼玉県産業技術総合センター  
製品開発支援担当 影山和則

